

# 令和3年度鶴岡市立図書館協議会 会議概要

○日時:令和3年9月24日(金)午前10時~11時40分

○会場:鶴岡市中央公民館 第一会議室

○出席委員

中村ちか子委員、笹山一夫委員、草島陽子委員、池田達枝委員  
宮島昭子委員、五十嵐武委員、三浦洋介委員、本間 積委員  
安藤幸子委員、鈴木 邦委員、小野寺せつ委員、鈴木和子委員

○欠席委員

井上裕子委員

○市側出席職員

図書館長 武田綾子、館長補佐 今野 章、社会教育課長 三浦裕美  
図書館主査 齋藤剛志、図書館主査 松田亜紀子

○公開・非公開の別 公開

○傍聴の人数:なし

○会議内容

1. 委任状交付

2. 開 会

3. あいさつ

4. 図書館協議会委員並びに事務局紹介

5. 正副委員長の選出

委員長 三浦洋介委員 副委員長 安藤幸子委員

6. 委員長・副委員長あいさつ

7. 報告・協議

(1) 令和2年度図書館事業報告(要覧P7~19)

(2) 令和3年度図書館重点施策と主要事業について(要覧P20~24)

(3) コロナ禍における読書奨励事業について

(4) その他

【質疑・意見】

委員) 団体貸出が元年度より2年度は60団体くらい減っているのはなぜか。

事務局) 移動図書館が、昨年4月から5月の頭まで運行休止し、団体貸出を行っていた施設に行く回数が減った。直接来館していた団体も減った。

委員) 教員としても気軽に、授業で使う本の貸出もしてもらっていた。

委員) 分館では、羽黒分館の利用者が断然多い。何か工夫があるのか?

副委員長) 休館日が年末年始だけ。他館が休みの時の利用者が多い。庁舎に併設されていて、庁舎が休みでも図書館は開いている。

事務局) 賑わいづくりとして庁舎に移設併設されたことも理由としてある。

副委員長) 以前はシルバー人材センターの人だけだった。今は司書がいるので相談ができる。司書がいるのといないのとでは全然違う。

委員長) どの館もそうだが、気持ちのいい挨拶と応対で、また来たくなる。

委員) 司書の勤務体制について、どのようになっているのか。

事務局) 会計年度任用職員で、勤務内容を理解したうえでの応募である。

委員長) 勤務日数とか時間数の違いは?

事務局) パート職員は、分館だけの勤務の方や、分館と本館と兼務の方がいる。

事務局) 藤島と温海以外の司書は週に4.5日。日曜と平日半日がパートの事務職員。分館のパート職員は、人によって違うが、本館にも週1~2日勤務している。温海のみ、分館だけを2人で4.5日と2.5日に分けて勤務している。

委員) 本人が勤務内容を了承しているのであれば、この件は了解した。

委員) 要覧P19の職場体験・施設見学について。受入数の減少は学校側の事情か。中学校からは来ていない。要因があれば教えてほしい。

事務局) 受入れは拒否していない。高校生は受け入れた。夏休み期間に体験を行う中学生は、休み自体短くなっていてと思われるので、参加機会がなかったのかもしれない。今年度は中学生も職場体験に来ています。

委員) 学校で、リモートや給食時間の校内放送で読み聞かせできないか。

事務局) 読み聞かせ団体では、対面で伝えることを大切にしている。会議とは違うので、リモートでの読み聞かせはしないという意見。生のお話を伝えたいという希望を尊重している。

委員) 小学校の教員である。昨年度は新型コロナ感染症で休校したこともあり、学校としては学習保証、授業優先となった。また、感染防止のため校内に外部から人を入れることはできないが、各校の読み聞かせサークルの朝学習の時間だけならOKとしたところもある。先生が自分の受け持ちの子どもたちに読み聞かせをやっているところもある。できることからしていきたい。ZOOM利用も良いとは思いますが、やはり生の声、表情に勝るものはない。子どもたちのキラキラした目を見ながら読み聞かせするのは良い時間だと、自分も元氣もらうのだと、そのようにおっしゃっている。

委員長) 生の読み聞かせは、相手の表情を見ながらみんなで作り上げていく。コロナの第6波が来ると何にもできない。その間をつなぐのがZOOMにならないか。こんな方法もあるということがあれば伝えてもらえれば。

委員) 温海分館で読み聞かせをしている。元年度は100件くらいの活動だったが、2年度は4割くらいになった。小学校や児童館には行けるようになったが、授産施設にはまだ行けない。分館での2年度の活動は、クリスマスおはなし会の1回だけ、予約制で実施した。今年度は七夕おはなし会もできたしクリスマスおはなし会もできる。七夕の方は7月開催で、市広報に写真付きで紹介してもらった。20人ほどが参加してくれた。小さな絵本の読み聞かせはできないが、人形劇やパネルシアターのような視覚的なものをやる。読み聞かせはアナログなもので、家で子ども・孫を膝に抱っこした時や寝るときに読んでいた。その観点からはZOOMとかリモートはしづらい。外部から人を入れたくないという学校の気持ちもわかる。給食時間に昔語りのような感じで放送を流すことは可能だと思う。読み聞かせや昔語りを聞きながら給食を食べるのも気持ちがいいのではないかな。今年度は2回しかできないが、4年度は3回くらいおはなし会を開催させてもらいたい。

委員長) 高齢者施設は学校と違った意味で命に係わってくるので活動がしにくいと思うが、図書館と協力してできることとか、考えていることはあるか。

委員) 高齢者施設を訪問しての朗読ボランティア活動をしているが、2年度は全く行けなかった。本館内での月1回の視覚障がい者向けの活動だけである。以前は本の朗読もしていたが、今は広報など生活情動的なものを読んでいる。交流があって社会情報が入っていたものが、今はラジオだけになったとのことだ。そういう意味では、月に1回の対面朗読が生きていく上での糧になっているのかなと思う。高齢者施設は、外部のボランティアが入らないと、施設の職員とたまに来る家族だけになる。外部との刺激がなくなって精神的に弱っていく、そういう一因に新型コロナ

感染症はなっている。

委員長) 月1回でも広報を読んでもらっていることは、自分も忘れられていない、自分のことを気遣っているというメッセージにもなる。大事なので光を当てて。大きな役割を果たしていると感銘を受けた。

委員) 保育士をしているので、幼児向けの本に目が向く。幼児の本のコーナーはあるが、その上の年代の絵本は数が多いので、どこから選んでいいのか悩む。五十音順でないのだめなのか。おおよそでいいので年少向け・年中向けなどに分けてあるとすごく選びやすい。年齢別とかにはできないか。

委員長) 小学校の司書教諭をされた方もいらっしゃるが、学校とのつながりも含めて図書館を見たときに、年齢別の配置の仕方とか、関連して意見はあるか。

委員) 学校図書館はすべて十進分類法で並んでいる。市立図書館に来ると絵本だけが五十音順。小学校に入ると、その作家の本を続けて読みたいとか、それを読みこなすとかあるので、本を探すのが大変だった。時間があれば自由に手に取って見ることができるが、並び方を変えないのであれば、ある程度年代別のリストを作って置いてもらうと大変助かる。

委員) 櫛引分館は、見えるところに季節の本を並べている。YAなどいろいろなコーナーが作ってあって選びやすい。どこの館も工夫はしていると思うが、そういうコーナーがあるので、ぜひ櫛引分館においていただきたい。

委員長) 赤ちゃん向けのリストは、赤ちゃんをお持ちの方が「これ読んでみようか」ということで良い。年少・年中など区分けは非常に難しいと思うが、五十音順でなくそんな感じで括ったら借りる方も良い、というご意見があったが、事務局の見解は。

事務局) 乳幼児向け絵本は背表紙にくまちゃんシールが貼ってある。お薦め本には赤や緑色のシールを貼っており、このコーナーも五十音順である。職員が本を戻すときもどこに戻せばいいのか、至難の業になっている。見やすい、手に取りやすい並び方というものもあるかと思うので、今後検討させてもらいたい。

委員長) 本館でできることがあればお願いしたい。元図書館長の委員もいらっしゃるが、中も知っていて外からも見ている、何か意見は？

委員) 本館・分館・関連の団体が、このコロナ禍の中でよく頑張ってくれていると思った。全国的にみて、図書館が元になったクラスターはあるか。

事務局) 今のところクラスター発生の情報はない。

委員) 温海町の頃は図書館はなかったが、地域の方が頑張ってくれた。今回も温海分館はほとんど利用者が減っていない。コロナ禍の中でも頑張っている。地域の方々も頑張ってもらっているので、コロナがなくなって、いい図書館経営ができるようになってくれればと思った。

委員) 複数冊ある絵本は、1冊は五十音順、それ以外は年齢別や児童室の季節コーナーにとか、そのような分け方ができるのではないか。

委員長) 五十音順プラス何かのコーナーとか。季節とか年齢とか。

委員) 本館の入口で既に行っているのは知っているが、児童室にもミニコーナーがあると、おうちの方も選びやすいのかなと思った。

委員) 今の話とはちょっとずれるが、紙芝居というのは世界で日本にしかない。戦前は大政翼賛会に組み込まれ、戦争に協力するという国策で利用された。戦後は反戦を基本においた。大人向けから子ども向けへ、特に平和に力点を置いてというのが出版社の反省の出発点だった。戦前の「桃太郎」など、ロシアや中国を征伐するという紙芝居ができたが、こういうのは一切やめるとというのが今の出版社の精神として脈々と受け継がれている。このような紙芝居の歴史・背景を子どもに教える必要はないが、出版社がそういう姿勢で作っているということを肝に銘じてほしいと思う。日本にしかない紙芝居を高齢者施設でたくさん読んでほしい。

委員長)皆さんの声を聞かせてもらったが、社会教育課長はいかがか。

社会教育課長)いろいろなご意見を聞かせていただき勉強になった。社会教育課に係る部分としては、要覧 P20の重点施策、「子どもの事業の推進」の7ヶ月検診で読み聞かせをしてから本をプレゼントしていた(ブックスタート事業)。去年は感染拡大防止のため対面での読み聞かせはできなくなり、本を選んでもらうだけの事業だったが、本を読むきっかけとなる大切な事業なので、そういう形でもあってもできたことは良かったと思っている。今年度は、検診が健康相談という形に変わったが、親子4~5組の少人数で、感染対策を取りながら読み聞かせを再開させてもらった。お母さんたちもどんな本がいいか、読み聞かせをするのに良いきっかけになっているし、小さいうちから本にふれるのが大事なので、感染対策を取りながら、社会教育課としては進んでいきたい。

委員長)実現は難しいと思うが、3つだけ掻い摘んで。一つ。県立図書館に行ったが、本から雑誌から、学校の現役の先生だったら調べものとか、本当に凄くてびっくりした。庄内にも県立図書館の分館があってもいいのではと思った。二つ目。各分館の蔵書について。温海分館の蔵書数は他の分館より多いなと思った。いろんな事情があるのかもしれないし、各分館で共通に持っていなければならない本もあると思う。ただ、あそこの分館に行くときこういう特色があるとか、ここに力を入れているなどというのがあっていいのかなど。三つ目。小学校でやっている発明クラブの人が、考案創作展に自分の発明を出している。社会科展は小学校からは出るが中学校になると出す人が極端に少なくなる。郷土資料館があり専門職員も運営協議会委員もいるので、社会科(歴史)で学校に出張講座のようなものはできないか。鶴岡の歴史を学んで愛着を持って鶴岡市って素晴らしいなと、社会科でも学校とそういう繋がりをもってほしい。社会科クラブでも郷土クラブでも、講座に魅力がある、そういうのが少しずつ根を張って芽が育てられないかなとか、そんな夢みたいなきことを思っている。

副委員長)先ほどの紙芝居の件だが、羽黒に大型紙芝居を作ってやっていた団体があつた。社会福祉協議会が紙芝居を預かっているはずだが、それを活用してもらえたら良いと思う。

委員長)作品のすばらしさはわかる。もう一度活用できれば素晴らしいと思う。今年度の会議は時間が短かったと思うので、来年はせめてあと10分あればいい。これで終了として事務局お返りする。

事務局)委員長の話に関連して何かご意見ある方は?

委員)去年も話したが、つちだよしはる原画展が分館にも回ってきたらいいなと思う。ぜひぜひ実現させてほしい。本館ありきでなく。

事務局)10年位前の原画展は、全ての分館を回った。本館で飾った分量の6割くらいの量だが、内容も本館と違い、好評だった。

委員長)夏休みは小学生が図書館に行くチャンスで、自由研究の参考になったし、親子で図書館に行くいいチャンスだった。図書館でも資料を揃えてくださっているのがありがたい。子どもたちが一人で調べるのをわかりやすく案内したり、いろんな工夫をしていた。そういう積み重ねが、子どもたちと一緒に素敵な図書館づくりの町になるんじゃないかな、というようなことを思った。

## 8. その他

(事務局より)

山形県図書館大会鶴岡大会開催方法の変更について

## 9. 閉会